

滋賀森林インストラクター会

会報・第15号

2014年11月10日



シロダモの雄花（高島市黒河峠にて 2014.10.12）

目次

1. 近畿連絡会研修会 長浜市余呉・菅山寺	小西 民人	2~3 頁
2. 「緑の少年団指導者研修会」の報告	佐々木 建雄	4~6 頁
3. 定例研修会（みくまり塾等）について	小西 民人	7 頁
4. 第9回森づくり交流会「ふれあいフェスタ 2014」	梶谷 栄治	8 頁
5. 森林・樹木が登場する文学作品	高橋 優	9~10 頁
6. 事務局よりー『日本の森100』配布状況などー	事務局	10 頁

～近畿連絡会研修会 長浜市余呉・菅山寺～

研修担当 小西 民人

今年5月10日(土)・11日(日)の2日間にわたって今年度の近畿連絡会研修会を計画し、無事終えることができました。参加者は、京都会5名、奈良会5名、和歌山会5名、大阪会6名、兵庫会3名、他に、和歌山から森塾所属の方が14名、当滋賀会から11名、計森林インストラクター35名、森塾14名、総計49名の参加でした。

当初、ぜひ見て欲しかった春植物などの種々の花々は時期が過ぎていて、早かった春の訪れを悔やみもしましたが、滋賀の豊かな自然を垣間見ていただけたことはそれなりに意義があったのではないかと考えています。滋賀会の会員および参加していただいた近畿の皆様のご協力、ありがとうございました。次からは、今後の取り組みの参考になればと思い、取り組みの流れ、当日の様子等についてまとめてみました。

(1) 実施までの取り組み

- ① 兵庫会主催近畿連絡会研修会への参加 2013.11.16～17 六甲山周辺
- ② 研修宿泊地・ウッディパル余呉の下見 2014.1.15 pm 施設確認 3名参加
- ③ 滋賀会役員会 研修会の素案の了承 3.16 pm 旧大津市公会堂
- ④ 実行委員会・運営組織決定 3.23 pm ウッディパル余呉にて
- ⑤ 研修予定地の登山道の確認(小原トチノキ巨木林・菅山寺) 3.29 11名参加
- ⑥ マイクロバス借り上げ申し込み・滋賀中央観光 4.5
- ⑦ 滋賀会総会 研修会への協力の要請 4.6 pm 旧大津市公会堂
- ⑧ 登山道の再確認(3.29に未確認の部分) 4.11 小原・菅山寺
- ⑨ 研修地での研修内容の事前確認 5.5 小原・菅山寺 11名参加
- ⑩ 小原トチノキ林への道の最終確認 5.10 当日朝

前年の兵庫会の研修会に感銘を受け、次は滋賀会の番と知り、そこから取り組みが始まりました。滋賀での研修地をどこに設定するかで悩みましたが、前年までの定例研修会の地・菅山寺が低地にブナ林が残り滋賀会の会員も熟知しているので適地と考えて設定しました。すぐ近くに宿泊にもってこいのウッディパル余呉があるのも決定の一因です。時期は秋の紅葉もいいのですが、春植物の見られる春がいいと考えました。菅山寺は2日目に回るとして、1日目はどうするかで、会員の水田氏から近くの小原にトチノキの巨木林が確認されたので、そこはどうかという提案があり、その提案に乗りました。

また、小原のトチノキ巨木林を守る活動をされている「高時川源流の森と文化を継承する会」の会長である太々野氏がイタヤカエデの材を編んで作る伝統工芸「小原かご」を伝承されており、1日目の夕食の前の研修としてお願いすることにしました。これで研修日程等の素案ができ、役員会で実施日の検討を経て日程等が決定されました。

その後は、近畿の各会に送る「募集ビラ」や「見どころ」、参加者向けの「ご案内」などの文書や

当日用の「樹木目録」、「春植物&春咲き植物図鑑」、リーダーとなる滋賀会会員向けの「案内の概要」などを研修担当として準備しました。一方では、事務局の高橋氏を中心に、近畿の各会への呼びかけ、参加者の集約、滋賀会の役割分担、参加者のグループ分け、宿泊の部屋割り、研修会の収支予算など、こまごまとした、しかし大変重要な取り組みを進めていただきました。また、下川・中村両氏を中心に夜の交流会用の飲食物なども準備していただくなど、このような会員の皆様の表には出ない、縁の下のお力添えで、一定の成果が上がった2日間になったように思います。

(2) 研修会当日

日程の詳細は当日配布の赤いファイルをご覧ください。研修両日とも4グループに分かれて研修をしました。主な研修内容は、研修場所が積雪の多い日本海側にあるので、いわゆる「日本海要素」の植物群が多いこと（低木で斜上したり、葉が薄くて表面積が大であったり）。また、1日目の小原トチノキ林では、オニグルミ、ヒメグルミ、オオバクロモジ、ユキバタツバキ、ユキグニミツバツツジ、クマシデ、サワシバ、トチノキ、シナノキ、フデリンドウなどを観察しました。「継承する会」の方が作られた蔓を上手く使った監視小屋も見学させていただきました。夕食前には太々野氏の小原かごの実演で盛り上がりました。太々野氏にはシナノキの繊維での縄編みも実演していただきました。2日目の菅山寺では、ブナの林やナナカマド、菅原道真お手植えの伝説がある千年ケヤキ、アカガシ、モミ、トチノキ、ミツデカエデ、ゴマギ、オニグルミ林、イヌブナなどを観察しました。以下は当日の様子の写真です。



小原集合。小屋も後ろに



トチノキの前で



太々野氏を囲んで



森林文化センター前で



坂口表参道出発



千年ケヤキの前で

～緑の少年団指導者研修会報告～

佐々木 建雄

今年度、滋賀会が滋賀県緑化推進会から受託した新事業、「緑の少年団指導者研修」について、「みなくちこどもの森」会場での様子を報告します。

日時・・・9月4日（木）、13:00～16:00

参加者・・・大津緑の少年団から参加の2名をはじめ、他の地域から参加の6名を合わせ合計8名。
また、オブザーバーとして、スポーツ少年団から1名、みなくちこどもの森から2名が参加。

内容・・・室内研修（約1時間）

滋賀会で作成したパワーポイントの共通教材を使って、森の仕組み、働き、日本の林業とその課題、森で出遭う危険な動植物とその対処法について説明。



屋外研修（約1.5時間）

子どもの森の観察コースを使って、樹木観察を実施。季節が秋に向かう折から、秋の実りを中心に観察を進めることとし、コナラ、クヌギ、アラカシなどのドングリ、ヤマボウシの実などを紹介。その他、里山の代表樹種や日本の植林の代表樹種であるスギ、ヒノキを説明。

参加者には失礼かとも思ったが、大人でも意外とスギとヒノキの

区別がつかない人が結構見受けられるので、ちょうど両者が並んで生えている場所で、あえて説明をする。



研修終了後の参加者アンケートで、樹木観察は「なるほど」「へえ～」ということばかりで自分の引き出しが増えた、とか、命のつながりを改めて感じた、森についての認識を新たにしたり、などの回答からうかがえるように、受講者の受け止め方は様々であるが、おおむね前向きに取り組んでいる姿勢がうかがえ、研修の成果の表れではないかと感じました。

緑の少年団は県下で54団、2994名（平成25年度）を数える大きな組織であります。さらに指導者を加えれば、3000名を越える組織となり、この組織を活用しない手はありません。これまで、助成金をもらうために、通り一遍の活動しかしていない団が多かったようですが、緑の少年団に本来期待されている森林環境学習への取り組みがもっと活発になるよう、きっかけづくりになれば、というのが今回の取り組みのねらいでした。

この取り組みを今回だけで終わらせず、これからいかに発展させ、継続させていくかが大きな課題です。

～*～*～*～*～*～*～事務局より～*～*～*～*～*～*～

佐々木会長から9月4日に開催した「緑の少年団指導者研修会」の様子を紹介していただきましたが、この研修会は緑化推進会様が計画され県内各所で計8回開催され、それぞれ滋賀会会員が講師として参加しています。研修風景のスナップ写真を紹介します。

(写真提供：滋賀県緑化推進会)

開催日	開催場所	滋賀会講師
7月24日(木)	湖北地区：きゃんせの森	小西民人、下川茂
7月31日(木)	高島地区：マキノ高原	梶谷栄治、清水徹男
8月1日(金)	南部地区：林業普及センター	下川茂、高橋優
8月6日(水)	高島地区：ピラディスト今津	梶谷栄治、高橋優
8月21日(木)	湖北地区：きゃんせの森	清水徹男、下川茂 平田明、今城克啓
8月28日(木)	中部地区：河辺いきものの森	佐々木建雄、小西民人
9月4日(木)	甲賀地区：みなくちこどもの森	佐々木建雄、高橋優
9月10日(水)	中部地区：高取山ふれあい公園	小西民人、高橋優



7-24 きゃんせの森：どんぐり検索



7-31 マキノ高原：生物進化の紙芝居



8-01 森林センター：樹木観察



8-06 今津：シカと遭遇



8-21 きゃんせの森：受講者の多かった研修会



8-28 河辺いきものの森：樹冠観察



同：ツチアケビの観察



9-10 高取山ふれあい公園



同：紹介したどんぐりのサンプル

～定例研修会(みくまり塾など)について～

研修担当 小西 民人

先日 10月12日(日)に第8回みくまり塾を無事終えて、残すところ12月7日(日)予定の1回きりとなりました。この地で確認できた植物は、花をつける顕花植物のみでカウントすると、樹木141種、草本93種の計234種(未確定の種も含む)となりました。その他、種々の昆虫類やカエルなどの両生類等々、多くの動物にも会えました。事後の研修報告等、会員の皆様のご協力、ありがとうございました。(まだ終わっておりませんが。)



ツルリンドウ：9-06 みくまり塾



リンドウ：10-12 みくまり塾

さて、研修担当として、これまでの定点を使つての研修会を総括したいと思います。最初は、一丈野国有林でのタマミズキ塾2年間、次に、菅山寺ではごろも塾2年間、そして、今回のマキノ黒河峠・明王禿でのみくまり塾2年間と、6年間にわたって実施してきました。6年間で湖南、湖北、湖西と、滋賀県をほぼ一周したことになります。回を重ねるにつれて、参加者はリタイヤ組を中心に絞られてきて、漸減していく傾向がありました。来年度以降は、2か月に1回のペースは保ちながら、場所を定点にせず、季節ごとにテーマのある研修地を設定して実施するというやり方で進めていってはどうかと考えています。奇数月、偶数月の枠も取り払い、ベストのタイミングで研修を行う。講師はその地の案内役が中心になって担当する。こんな方法でどうでしょうか。研修担当としては、研修適地を会員の多くから提案してもらい、それに基づいて研修地を決定し、企画調整を行う。このようにできたらいいなあと思っています。滋賀県やその周辺にまだまだ残る貴重な自然を活用して、さらに研修を充実させることが、森林インストラクターの力量アップにつながるからです。今後、ヒヤリングをして原案を作成し、4月の総会には来年度の年間計画を提案するつもりです。

方法についてのご意見や研修適地の提案などございましたら、小西の方までご連絡ください。

～第9回森づくり交流会「ふれあいフェスタ2014」～

梶谷 栄治

今年（2014年）は10月4日（土）、長浜市豊公園にて盛大に開かれました。この催しは、豊かな森づくりへ多くの県民参加がある事を願って、日頃から森づくり活動の経験もなく、特に森林・林業に関心がなかった人達にも、参加してもらおうと、県主催で開かれているイベントです。

今年の特設ステージでは、森づくり活動の紹介、森のクイズや、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる「森の玉手箱」など沢山のプログラムでした。広い会場内では、森づくりグループや森林関係機関など県内各地から41団体が、それぞれのテントで展示、体験コーナー、販売等で参加しました。また、今年（2014年）は会場が長浜という事もあって、会場内では「長浜市森づくりフェスタ2014」というのも同時開催されていました。当日は雨の心配もなく、多くの親子連れを含めて、全体として3600名（主催者調べ）の参加がありました。そんな中で、我が「滋賀森林インストラクター会」も、数あるテントの中のその一つ、パネル写真の展示と共に、すっかり恒例となった当会自慢の「きのこ汁」は108杯の売り上げ、多くの参加者のお腹を満たして、益々好評に。。。



写真提供：滋賀県森林政策課

～森林・樹木が登場する文学作品～

高橋 優

前号の編集後記で梨木香歩の『家守綺譚』をこのように紹介しました。「掌編を28話集めたファンタジーです。森林インストラクターに何の関係するのかわかれるでしょう。実はその28話すべてタイトルが草木の名前なのです。1話「サルスベリ」2話「都わすれ」3話「ヒツジグサ」・・・27話「桜」28話「葡萄」といったぐあい。」森林インストラクターにとって草木のことは基本知識ですが、この小説の舞台は明治末の山科から大津にかけての疎水周辺と琵琶湖。滋賀会会員にとっても話のネタになりそうな小説です。物語は琵琶湖で遭難した主人公の友人があゝの世から現れて、さらに河童や妖怪の類の異界の物たちが絡んで展開します。わたしは夏目漱石の『夢十夜』を思い浮かべてしまいました。同じ幻想小説であり、執筆時期がこの小説の時代背景と一致するからです。でも『夢十夜』は心の闇をえぐり出すようなところがありますが、『家守綺譚』は明るいユーモアに満ちたファンタジーになっています。

森林・樹木が登場する文学作品なんて大げさなタイトルを掲げてしまいましたが、思いつくまま挙げてみます。わたしの偏った読書嗜好なので一般的ではありませんが.....

まず思い出したのは子供の頃読んだ本、J.R.キップリング(英)『ジャングル・ブック』とサムイル・マルシャーク(露)『森は生きている』です。前者は熱帯のジャングルに棲む動物たちが登場する物語が7話集められています。しかし、狼に育てられた少年モーグリの話以外わたしはまったく憶えていません。キップリングは英国人で最初のノーベル賞作家。近年村上春樹が受賞の候補に毎年挙げられて話題になっている折、『ジャングル・ブック』を読み返してもいいかもしれません。

後者は子供のための有名な戯曲。ソビエト連邦時代の1943年の作品。日本では1954年に初演、現在までの上演回数は2000回に迫るそうです。筋の紹介は必要ないでしょう。原題は「12月」(Decemberではなく12 Monthsという意味)、継母にいじめられる娘という西洋の童話の典型的な設定ですが、森のことをよく知らないと書けないような描写があり、物語の展開も素晴らしく面白い戯曲です。

童話といえば、「森林(もり)のまち童話大賞」という児童文学賞があるのをご存知ですか。静岡県浜松市が主催し、森林をテーマにした作品を募集している文学賞です。「なんで浜松??」と思いますよね。浜松には海のイメージはあっても森のイメージは浮かんできません。実はこの賞、林業の盛んな天竜市が2003年に創設した児童文学賞なのです。ところが、2005年の市町村合併で浜松市に編入され浜松市主催になったというわけです。作品の公募は3年毎、今年は第5回の募集で来年審査となるようです。大賞受賞作は挿絵を付けて出版されます。過去4回の受賞作です。短い話ばかりなのですぐ読めます。

第1回(2003)	『机のなかの竜の森』	ほんだみゆき
第2回(2006)	『ふしぎな森の転校生』	小川美篤
第3回(2009)	『へ～い まいど! てんぐやです』	仲井英之
第4回(2012)	『かさこそ森の気どりやキツネ』	有島なさ

今年「WOOD JOB!」という映画が公開されました。観られた方も多いかもかもしれません。原作は三浦しをん『神去なあなあ日常』という小説。高校を卒業した都会の若者がひよんなことから林業の世界に飛び込み、過酷な山仕事に揉まれて成長していく物語。ひとことで言うと林業青春小説です。森林インストラクター必読。わたしは初版本を買っています。

最後は格調高い1冊を紹介します。幸田文の『木』というエッセイ集です。新潮文庫から出ています。何が格調高いのかというと、まずその文章。鍛え抜かれた日本語の文章。全15篇のエッセイの書き出しの1行に唸ってしまう。真似のできない達人芸。そして、登場する人々が一流。話題にする樹木のテーマが森林インストラクター顔負け。倒木更新のような森林生態から檜の材や宮大工のことなど幅広い。文庫本160頁ほどに珠玉が溢れる1冊です

予定の紙数を超えてしまいました。菅田哲也『ヒトリシズカ』などのミステリィに触れる余裕がなくなりました。またの機会にさせていただきます。

～事務局よりお知らせ～

(1) 『日本の森100』配布・頒布状況

今年6月に山と溪谷社から出版されました日本森林インストラクター協会選定『日本の森100』を滋賀会で購入し、関係諸機関へ進呈するとともに会員へも頒布しています。進呈した関係機関は、滋賀県緑化推進会、県森林政策課、森林保全課、滋賀森林管理署の4機関部署です。今日現在で、40冊購入し32冊配布・頒布しています。申し込まれた会員の方にまだお渡しできていない方もおられます。申し訳ありません。この場を借りてお詫びします。事務局にまだ数冊の残部があります。頒布ご希望の方は事務局高橋までお知らせください。

(2) 会計より

会計高田さんからお知らせです。

現在高田さんは諸事情により多忙で、会員の皆様からの経費申請の処理に時間を要することが多く、支払いが遅れることがあります。ご容赦ご了解をお願いします。

編集後記

会報第15号(2014年度上半期号)をお届けします。

今号は近畿連絡会研修会と緑の少年団指導者研修会の委託事業という2大トピックに尽きます。総勢30人ほどの小所帯の滋賀会、それもみなさん何かお仕事や私用さらに別の社会的活動を持っており、フルに活動できる人など誰もいないという状況の中で事業を無事実施できたことが何よりです。会報に記録する価値ある上半期ではないかと思えます。

毎回、会報の発行が遅れ気味になります。今号も編集計画から半月ばかり遅れてしまいました。会報の編集を手伝ってくれる方はおられないでしょうかね。(笑)

(高橋)